

美濃陶磁歴史館だより



連続 うちんたあのお宝、なんやね？

コラム 第14回 古代と中世 二つの館

～肥田浅野・浅野館跡～

浅野館は、土岐氏二代目の光行と弟光時が、承久の乱（1221年）後に一日市場館（瑞浪市）から肥田浅野の地へと本拠地を移した際に建てられた館と伝わっています。以後、鎌倉時代を通して土岐氏宗家の館として続きますが、館そのものは発見されておらず、その位置すら不明なままでした。ところが、令和2年度の試掘調査の際に、館に伴う堀の可能性が考えられる遺構が発見され、館の位置に関する大きな手掛かりを得ることができました。館の選地には当然ながら理由があります。立溝川が土岐川に流れ込むこの地点は防衛だけでなく土岐川の水運管理にも適した位置と考えられます。字絵図に残る地割の調査からおもろくこの位置だろうと推測されるのですが、確定にはもう何力所か追加の調査が必要です。

同じく令和2年度の別の試掘調査では、予想していなかった大きな発見がありました。なんと奈良時代末から平安時代初頭頃の大型掘立柱建物跡の他、複数の掘立柱建物や竪穴住居、土坑、区画溝などからなる拠点集落の存在が明らかとなったのです。大型掘立柱建物の内二棟は高床式倉庫、もう一棟はより太い柱を用いており母屋のような建物だったと推測されます。これらの大型建物は、官衙（当時の役所）に匹敵する規模を持ち、郷長宅、あるいは郡衙別院（郡役所の支所）といった施設だったと考えられます。こういった地域の長の館や役所跡は発見例が少なく、とても貴重な遺跡といえます。古代に存在したもう一つの浅野館ともいえるこの館、そして周囲の集落跡についても、今後の追加調査が大いに期待されています。

堀跡の一部

高床式倉庫など（空撮）



遺跡位置地図 浅野館跡（推定位置）、および古代の拠点集落跡 ※調査は終了しており、現地での見学はできません。

企画展のご案内

発掘調査報告展 ～土岐を掘る～

土岐市内で近年に行われた多くの発掘調査の中から、浅野館跡など、9つの遺跡を厳選し、実際に出土した遺物や調査写真などとともに分かりやすく紹介します。遺跡はとても身近なもので、先人の残した掛け替えのない遺産であることを知り、遺跡の保護の重要性についてご理解いただく機会になればと思います。

2/18(金)～

5/15(日)まで

同時開催 重要文化財公開「元屋敷陶器窯跡出土品展」

美濃陶磁歴史館
(☎ 1245)